

## 欧文誌の原稿募集について

すでにご案内いたしましたとおり、来年1月に欧文誌「Journal of Information Processing」を創刊いたします。同誌に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

### 1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

### 2. 発行計画

(1) 50 ページ×4回/年=200 ページ、A4判

(2) 純学術研究発表誌とし、Paper と Short Note を募集する。

(i) Paper (原則として8 ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読規  
準に基づき、欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note (2 ページ以内に限り)——「情報処理」掲載のショート・ノート  
に準じて、採録を認められた欧文による小論文。

### 3. 「情報処理」との関連

Paper と Short Note の和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

### 4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙はA4判 (21 cm×30 cm) の白紙を使い、1行 65 ストローク、ダブルスペースで上下3 cm (強) の余白を残し、パラグラフは初めを5~6 字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24 枚で、欧文誌刷上り8 ページに当る。なお文章中指定のない場合の記号は立体、数式中の記号は斜体(イタリック)となる。

(2) 査読の都合上、タイトル、氏名、所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。

(i) Paper のアブストラクト——200 語以内

(ii) Short Note のアブストラクト——50 語以内にまとめる。

(3) 図(写真を含む)、表は、完成図(そのまま縮小製版できるもので、縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお、文字は縮版のさいも読める大きさに書く。)を本文と別にし、説明文は別紙にまとめてタイプし、本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。

### 5. 原稿の送付

(1) オリジナル原稿とコピー3部、計4部を送付する。

(2) 送付先: 情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

### 6. 別刷料

下記の通り別刷100部を印刷実費の一部として、ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷代	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000

## 研究会開催通知

(昭和52年11月15日～12月31日)

研究会	日	時	会場	備考
イメージ・プロセッシング	11月22日(火)	14:00～17:00	電子技術総合研究所	前号参照
コンピュータ・ネットワーク	11月22日(火)	13:30～17:00	堂島大橋国際貿易センター	同上
計算機アーキテクチャ	11月29日(火)	14:00～17:00	機械振興会館	下記参照
システム性能評価	12月16日(金)	14:00～17:00	同上	同上
マイクロコンピュータ	12月22日(木)	14:00～17:00	同上	次号参照

### ◆ 第21回 計算機アーキテクチャ研究会 (主査: 相磯秀夫, 代表幹事: 所真理雄)

日時 昭和52年11月29日(火) 午後2時～5時

会場 機械振興会館 地下3階1号室

[東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町駅, 都営1号線大門駅, 都営6号線御成門駅下車, 国電: 浜松町駅下車, バス: 新橋一汐谷線東京タワー, 等々力一東京駅八重洲口線飯倉1丁目下車, Tel. 03 (434) 8211]

- 議題 (1) コンピュータにおける産業革命 神田泰典 (富士通)  
[概要] 情報処理産業は, これから産業革命の時代だと言われている. だとすれば近代産業の発展の歴史は情報処理産業の将来を考える上で何か参考にならないだろうか?
- (2) 新しい計算機アーキテクチャ(1)——ハッシュ・ハードウェア 後藤英一 (東大), 井田昌之 (青学大)  
[概要] 数式処理などで遭遇するハードウェア機構について考察する.
- (3) 新しい計算機アーキテクチャ(2)——問題適応型コンピュータ 坂村 健 (慶大)  
[概要] ダイナミック・プログラミング技術を用いてあたえられた問題に適応する計算機の機能について考察する.

### ◆ 第16回 システム性能評価研究会 (主査: 石田晴久, 代表幹事: 斎藤柄郎)

日時 昭和52年12月16日(金) 午後2時～5時

会場 機械振興会館 地下3階1号室 [所在地は前記参照]

- 議題 (1) An Extension of a Model for Dynamic Allocation in a Paging Machine  
Tong-Haing Fin & Hisao Kameda (電通大)  
[概要] 統計的に同一の性質を持つプログラムを多重処理する場合の主記憶割当てについての Spirn および Ghanem の結果をより一般的な機

器構成の場合に拡張し統一的に論ずる。

(2) 計算機制御システムにおける負荷評価法の開発

石田秀昭, 福岡和彦, 四宮文人 (日立)

〔概要〕 鉄鋼, 電力, 交通など計算機制御の応用分野は広い。プロセス制御においては厳しい応答性を要求され, 更に高い稼働率で有効に活用しなければならない。この相反する要求を満たすためのシステム設計のツールとして開発されたシステムの応答性と負荷を分析する計算機制御システム負荷評価シミュレータを使った負荷評価法について述べる。

(3) グラフィックディスプレイを用いた簡易型計算機性能評価システム

原田紀夫, 佐々木司 (日電・中研)

〔概要〕 計算機システムの性能の評価を多数のケースについて手軽に行うには待ち行列モデルが広く用いられている。待ち行列モデルはサービス時間の分布などかなりマイクロな情報を要し, モデルの理解には数学的知識を必要とする。ここでグラフィックディスプレイを用いた簡易型の性能評価プログラムについて述べる。

## 第 2 回 LISP 性能コンテストの案内

本学会の記号処理研究会 (主査 淵 一博) では, 昭和 49 年の記号処理シンポジウムに続いて第 2 回 LISP 性能コンテストを行います。前回コンテストが日本の記号処理研究に与えた影響は大きく, その後多くのシステムの誕生と改良を促しました。お手近に LISP 処理系 (LISP マシンを含む) をお持ちの方は下記担当幹事までご連絡下さい。なお, 本コンテストは優劣を競うのではなく, 日本の LISP の現状を広く知るためのものであり, 海外のシステムの参加も予定しています。

問い合わせ先 〒180 武蔵野市緑町 3-9-11 電電公社武蔵野通研・池野特別研究室  
竹内郁雄

応募締切 昭和 53 年 3 月末日